



特色ある学校へ

西城紫水高校

No.7

●射撃部創設

1月末、西城紫水高校に「射撃部」が創設され、現在、数名の部員が月に数回、射撃指導を受けながら日々活動しています。

近年、生徒数が減少傾向にある同校では、活性化策のひとつとして特色づくりとなるクラブの新設を検討するなかで、射撃は県内では2校目と全国レベルで戦える競技であること、県ライフル射撃協会のさまざまな支援が受けられたこと、既存の施設環境ですぐに活動が開始できることなどから同競技が選ばれました。

山本浩史校長は「全国規模の大会に出場することで、生徒の自信につながることを期待している」と話していました。



▲射撃の指導を受ける生徒

●神楽部が県教育奨励賞受賞

西城紫水高校の神楽部が平成26年度広島県教育奨励賞を受賞し、2月13日、表彰式が広島県庁で行われました。

同神楽部は地元の西城町神楽愛好会から指導を受け、30年前に同好会として創設以来、地域の民俗芸能の保存と継承に貢献しています。当初から文化祭で神楽を披露するなど活動を続け、現在は庄原格致・西城紫水・東城高校の三校連携クリスマスコンサートや神楽甲子園、庄原市民俗芸能大会に出演するなど活動の幅を広げています。



▲神楽の練習風景

今年こそ優勝を！市民の思いを届け激励

庄原市カーブ応援隊が日南キャンプを訪問・2/14

No.8

庄原市カーブ応援隊訪問団31人が2月14日、広島東洋カーブのキャンプ地である宮崎県日南市の天福球場を訪問しました。

広島東洋カーブの応援を通して交流を行っている日南協力会や山口県岩国市の由宇協力会とともに、それぞれが持ち寄った特産品を緒方孝市新監督に手渡しました。

カーブ応援隊を代表して庄原市の神宮祥司副市長が「庄原の特産品を食べて、今年こそ優勝を！」と庄原市の熱い思いを緒方監督に伝え、チーズ詰め合せや、高野りんごのジュースなどを贈呈しました。

黒田博樹投手が広島東洋カーブに復帰し、ますます期待が高まる今年のカーブ。ぜひ皆さんもカーブ応援隊に参加し、一緒に熱く声援を届けましょう！



▲激励に訪れた庄原市カーブ応援隊

恒例の人間ひな人形登場

比和でお雛さん祭・3/6

No.5

比和上地域で、毎年恒例のお雛さん祭が開かれました。この行事は、フレッシュホーム(デイホーム事業)の行事で、地域の方々がお内裏様、おひな様、三人官女に扮して行われます。比和保育所の園児17人も参加し、一緒に歌を唄ったり、手遊びをしたりと、地域の方々といっしょに、初めて目にする実物おひな様に感動している様子でした。

その後、約9mにもなる具だくさんの巨大巻き寿司づくりに挑戦し、参加者全員で昼食タイムを楽しみました。参加者は「みんなで楽しみながら作るとさらにおいしい。また来年も行いたい」と笑顔で話していました。



▲人間おひな様と手遊びする園児

地域間交流で活性化を

口和青年部が地域活動研修会&交流会・3/14

No.6

口和自治振興区青年部主催の地域活動研修会&交流会が口和自治振興センターで開催され、部員約20人が参加しました。

講演では、たかの遊☆楽☆隊の藤元竜二郎会長と馬船純一副会長が民泊への思いを語り、取り組み内容を紹介しながら「民泊を受け入れた方が“生きがい”や“やりがい”を感じてもらえれば、まちが元気になる」と力説。「ぜひ皆さんもチャレンジしてまちを元気に」と熱いエールを送りました。

参加した青年部員は「前向きな話してとても刺激を受けた。今日の話を参考に、自分たちも無理のない範囲でできるところに取り組みたい」と話していました。



▲藤元さんの話に耳を傾ける参加者

民泊受け入れに手応え

とことん体験雪国たかの・2/14,15

No.1

2月14日、15日の2日間、広島市佐伯区の小学生28人が、高野町内の農家で一泊二日の民泊体験をしました。

初日の午前10時に高野町に到着した子どもたちは、ツアーを主催するたかの遊☆学☆隊(庄原市高野地域農村体験交流協議会)メンバーの歓迎を受けた後、まず雪遊びを体験。ス



▲かまくらでハヤシライスに舌鼓



▲きなこ餅づくりを体験する子ども

ノースライダーや雪合戦を楽しんだほか、巨大なかまくらの中で昼食を食べるなど、雪深い高野地域ならではの体験に大喜びでした。

その後、受け入れ農家との対面式を終え、3~5人に分かれて7軒の農家で民泊を体験。農家のお母さんと一緒に夕食づくりをしたほか、雪中野菜掘りや牛の世話をするなど、都会からやって来た子どもたちにとって新鮮なものばかり。何か発見したときの驚いた顔とそのあとのぞかせる笑顔が印象的でした。

受け入れ先のひとつ加藤和子さん宅には後日、「下の兄弟もぜひ参加させたい」と書かれた手紙が届き、成長して帰ってきたわが子を喜ぶご両親の様子も伺えました。

たかの遊☆学☆隊では、これからも積極的に子ども農家民泊受け入れを行っていく予定です。

一票の重みを体験

東城小学校で児童会選挙・2/12

No.3

東城小学校で児童会役員選挙が行われました。

児童会役員に立候補したのは、新6年生9人。立会演説会では「明るい笑顔のあふれる学校にしたい」「清き一票をお願いします」と、各候補者が自分の思いを一生懸命演説しました。

演説終了後、3年生以上の児童178人が投票を実施。投票会場となった音楽室には、この日、庄原市選挙管理委員会が実際の投票所で使っている記載台や投票箱を使って、大人と同じ雰囲気での投票を体験しました。

投票した児童は「ドキドキした。早く大人になって選挙に行ってみよう」と話していました。



▲投票する児童

奉納神楽を堪能

三楽荘で初春神楽・2/22

No.4

庄原市三楽荘で初春神楽が行われ、地域内外から約150人の神楽ファンが詰めかけました。

比婆荒神神楽社、比婆荒神神楽女組、比婆荒神神楽子ども神楽塾のメンバーが、地域の安泰と発展、無病息災、五穀豊稔を願い、伝統の比婆荒神神楽を奉納。観客は目の前で繰り広げられる儼かな神事、華麗な舞いを心ゆくまで堪能していました。

視察に訪れた鳥取県荒神神楽研究会代表の徳林亜美さんは「国有有形文化財に指定された立派な建物の中で見る神楽に感動した。また来年もぜひ見に来たい！」と声を弾ませていました。



▲子ども神楽に見入る観客

小さな花が里山に春を告げる

節分草自生地公開・2/21~3/15

No.2

節分草自生地として日本有数の規模を誇る総領町で2月21日から3月15日の間、自生地公開が町内の7カ所で行われ、3月15日には節分草祭が開催されました。

メイン会場の道の駅リストア・ステーションでは公開期間中、土日を中心に、山野草写真講座、絵手紙教室、寄せ植え教室などが行われ、多くの人でにぎわいました。

総合案内所では、節分草のボランティアガイド「花守り」が常駐し、観光客に自生地の開花状況を案内したり、節分草の魅力などを伝えていました。

また、総領小・中学校の児童生徒も、総合的な学習の一環としてボランティアガイドを務め、観光客に節分草の特徴や生態、総領が自生地になった理由などを手作りの紙芝居などで紹介しました。

自生地周辺を訪れた人たちは、山裾に咲く可憐な花に、一足早い春の訪れを感じていました。



▲自生する節分草を撮影する観光客



▲総領小児童が観光客にイラストで節分草を解説